

ほけん

347 公民館



大崎短歌会

兼題「花見・自由」

春雷のはげしき音に目覚めたり
 地の万物よ慈雨受けとめよ
 咲き誇る櫻の花を手折り見て
 我が学び舎も麗らかな春
 花見んと持留の坂一つ越え
 なの花道を辿る七キロ
 お花見に神社の境内花明かり
 集いし人の顔さくら色
 眺望の四阿に座し花八分
 寒残るなか花見短歌会
 気儘なる風に揺られて愛らしき
 雪柳舞う山並みを背に
 お花見の話などしてデイーの風呂
 髪洗われる幸せな時

上南紀子
 実吉安仁
 山下海征
 栞山重子
 川崎健一
 井元和子
 本後淑子

薩摩郷句

兼題「戦争」

「咲いたかなー」亡夫と歩きし平和公園の
 桜並木なつかしきかな
 榎園芳江
 笑みこぼるブルーシートにひらひらと
 早馬のさくら舞ひの宴に
 馬場みさ
 トランプン 戦争せ地球あ 切切舞
 (唱) 品物は無ごなつ 物価は上がつ
 遠矢耐多
 長げ戦争 やつと引揚がった紫電改
 (唱) 凜々し姿たい つい最敬礼
 井上三ちゃん
 子かい孫げ 悲惨ね戦争を 語り継つ
 (唱) 小んけ時かい しっかい教せつ
 諸木小春

隣とな 戦争が絶えん 堺け争け

(唱) 土手を削つちや ちんちん攻めつ

西ノ園ひらり

会ごちやつた 戦争せ征た限い 帰らん祖父

(唱) 遺影ゆ見ながい 線香を供げつ

佐藤ほつけちゃん

子分限者 年中戦争ん 飯食時

(唱) 末子は年中腹ペコ 負け戦争

満石うらら

彼処彼処 戦争ん火の手 泣つ子供

(唱) 目をば背く 痛ましニユース

上村牛歩

核戦争 終めな地球は 流れ星

(唱) 流れ星しなつ 生まれん地球

二見愚楽満

戦争どみ 大量んね程 金捨せ

(唱) 馬鹿な戦争を 早よ止めつくれ

長重リリー

田螺とん 戦争にや負けた 米作い

(唱) 百姓泣かせん 田螺におやされつ

下橋清天

戦争言が 罪の無子等が 犠牲いなつ

(唱) 将来のあい子供む 勿体なかひつ殺りつ

上窪小絵

仕掛け屋ん 戦争やい手にや 口ちや出せじ

(唱) 困つた首領に 世ん中狂つ

藤元鬼瓦